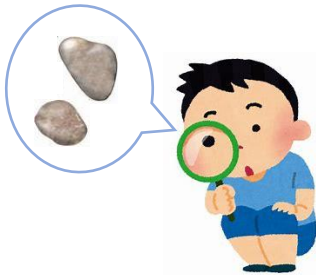




子供たちが目を輝かせる瞬間に出会う幸せ



その子は、毎朝登校すると、グラウンドを歩きながら下を見て何かを探しています。声をかけてみると、石を見付けていると言うのです。色や形が珍しい石を見付けると、校門のところにいる私のところまで嬉しそうに見せにきてくれます。そして、なぜ石が欠けたような形になっているのか、石がどうやってできるのかなどについて説明もしてくれます。私にとって勉強にもなり、今日はどんな石を見つけたのかなと楽しみな時間でもあります。石に興味をもち、自分で楽しみながら、瞳を輝かせて学びを進めている姿を見ると嬉しくなります。きっと家でも見付けた石について、楽しい会話が弾んでいるのだろうと想像すると、温かく幸せな気持ちになります。

その子は、ある朝、チューリップの球根を植える前の花壇の隅っこに生えている小さな芽を発見して知らせに来てくれました。「なんの芽だろう」と少し考えてから二人で相談し、もう少し大きくなるのを待って調べてみようということになりました。ところが、休み時間に慌てて校長室へやってきて「大変だ！芽がなくなっている。」と。きっと球根を植えるために花壇を耕す際に抜かれてしまったのでしょう。とてもがっかりしていましたが、「でも先生、種があったんだよ。」と言うもので、ちょうど手元にあったガラスの瓶を渡し、その種を育てることを提案したところ、途端に瞳がきらっと輝き、瓶を手を走っていきました。

翌日から、土の量はこれでいいのか、水の量はどうか、教室のどこに置けばよいかなど、熱心に質問をしてくるようになりました。そして、数日後。再び校長室へやってきて「先生、出たよ！芽が出たよ！」とそれはそれは小さな芽を見せに来てくれました。

小さな命を守り育てた達成感と喜びがあふれるその紅潮した頬ときらきらした瞳を見て胸が熱くなりました。



天気の悪い日が続き、児童玄関の玄関マットにはグラウンドの砂がたくさんついていました。玄関ホール担当の2年生が、何とかして砂を取ってきれいにしようと、知恵を出し合って頑張っている場面に出会いました。大変な仕事ですが、とても楽しそうに生き生きと掃除に取り組んでいる子供たちの姿を見て、幸せな気持ちで心が満たされました。

校長のひとりごと

ふと目にした子育てに関する記事に、「子供自身が目を輝かせているものに敏感でないと、子供が本当に学びたいものを見過ごしてしまいます」と書かれていました。気ぜわしく生活している自分を振り返り、とても難しいことだなと思いましたが、こうして実際に子供たちが目を輝かせている姿に出会うと、これまで見えなかったその子自身のよさや可能性を感じることができて、掛ける言葉も変わってくることに気付かされました。

『子どもが育つ魔法の言葉』の著者であるドロシー・ロー・ノルトさんの言葉に「見つめてあげれば 子供は 頑張り屋になる」とあります。子供の成長を願い、心配しながらも、その可能性にわくわくしながら温かく見つめていける大人になりたいと思います。

